

アクセス方法

<電車>
 東京駅から 山手線新線→小山駅下車（約40分）
 新宿駅から 湘南新宿ライン（山手線）→
 小山駅下車（おおよそ1時間）

<車>
 東北自動車道→佐野藤岡IC→国道50号線
 →小山市（東京から約2時間）

memo



ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>

小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 81

手に 思いつなぐ
 ～栃木県 小山市～

2013年1月20日（日）放送



大正時代、東京で組みひもの技法を学んだ職人が、間々田地区で始めた間々田ひも。草木染めの風合いと柔らかな手触りが特徴で、帯締めや羽織ひもに用いられます。現在、継いでいるのが、3代目の渡邊靖久さん。この石田久美子さんと、大正時代からの道具を使い、手作業で管理すれば理想のこうじができるのかを追い求める夫。米やこうじを発酵させる酵母をみずから培養し、夫を助ける妻。理想の酒造りを目指し、追求し続ける夫婦の物語です。

間々田ひも

旅の見どころ 3

栃木県南部の小山市。
 東京から東北新幹線でおおよそ40分。
 江戸時代から日光街道が通り、交通の要衝として栄えてきました。
 町には、伝統を受け継ぐ職人たちがいます。
 渡良瀬遊水地では、ヨシ刈りや、よしずを編み続ける職人。酒蔵では、日光連山の水でこだわりの日本酒を醸す夫婦。
 さらに、組みひも、間々田ひもを継いだ若き3代目。時を重ねて育まれてきた伝統に触れる旅です。



理想の日本酒を求めて

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1
渡良瀬遊水地のヨシ刈り
 小山市南部に広がる渡良瀬遊水地。群馬、埼玉、栃木にまたがる3300ヘクタールのおおよそ半分がヨシ原です。
 池貝孝雄さんは、家族と、12月から3月にかけて、よしずや屋根の材料になるヨシ刈りを行っています。ヨシは、自宅の工房で、両親の正一さんたちがよしずに加工作業。大正から昭和にかけて、一大産地となったよしず編みですが、小山市では池貝さんの家族だけ。故郷の文化を守っていくと営みを続けています。

